

【別紙様式Ⅰ】 令和6年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立清水小 学校

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】			校長名 笠 昇
	2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】			
	3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】			
学校教育目標		学校経営の方針		
自ら学び豊かな心とたくましく生きる力を持った児童の育成		○多様性を認め合い、誰一人取り残さない個別最適な学びの実現を図るとともに、地域との協働による教育活動を通して、持続可能な社会づくりに貢献する。 ○SDGsの取組を通して、持続可能な社会の担い手としての自覚や資質を育む。		
今年度の重点目標				
【学ぶ力の育成】 新たな教育課題を踏まえ魅力ある教育課程を実施し、主体的に学ぶ力の育成と確かな学力の向上をめざします。 【実践力の育成】 互いのよさや可能性を発揮させながら、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、自ら考え行動する力の育成をめざします。 【豊かな心の育成】 自他の命を大切にし、互いのよさを認め合う心情を育て、居心地の良い学級づくりに努めます。 【安心安全・健やかな体】 学校教育環境を整えるとともに、命を大切にし、安心・安全な社会の担い手としての素地を培います。				
評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
お子さんは、学校に行くのを楽しみにしていますか。	1・2・3	・不登校傾向のある児童・家庭への早期の対応 ・安定したクラス経営・授業づくり	9割の保護者から「そう思う・だいたいそう思う」という回答をいただいている。ただそうではない児童・家庭もある。	コーディネーターや児童指導と学年、担任が連携を図りながら、継続して対応を進めていく。
お子さんは、あいさつを自分から進んでしていますか。	2・3	・継続した児童会等の取組	4割の保護者から「そう思わない・あまりそう思わない」という回答をいただいた。昨年度より良くない結果が出ている。	児童会の活動のみならず、普段の学校生活からあいさつの大切さ、あいさつの仕方等指導をしていく。
お子さんは、家庭で学習していますか(宿題を含む)	1	・年度はじめに中学校区で作成した「家庭学習の手引き」を配付、家庭との連携を図る	家庭で「30分から1時間学習している」と4割の保護者が回答した。家庭学習の習慣は身につくつつあるが、学年に応じた時間、学習に向かうことが必要。	手引きを配付するだけではなく、学習の仕方等学び方について、学校でも指導し、家庭との連携を図っていく。
お子さんは、周りの人や友だちとうまくコミュニケーションをとったり、協力したりしていますか。	1・2・3	・個別に応じた丁寧な対応指導の励行 ・行事や活動をコミュニケーションの場ととらえて指導を進める	9割の保護者から「そう思う・だいたいそう思う」という回答をいただいている。友だち関係が良好な児童が多い反面、コミュニケーションで苦戦をしている児童もいる。	うまく友だち関係を築くことができない児童のみに対してではなく、学級経営の一端として友だちの関わりについて考える時間を確保しその都度指導していく。
お子さんは、いじめや暴力などの心配のない安心な学校生活を送っていますか。	2・3	・人権週間やISS活動の取組を通じて互いの人権を尊重したり、思いやりの気持ちを育てたりする指導を進める	9割の保護者から「そう思う・だいたいそう思う」という回答をいただいている。人権週間やISSの活動とタイアップして様々な活動をしてきた成果が表れている。	継続して、「生活アンケート」「学校づくりアンケート」を行い児童の実態を捉え、一人ひとりに組織的に対応して悩みや困りごとにアプローチしていく。

学校は、教育活動を充実させるための組織的な体制を整え、機能させていますか。	2・3	・教育活動を支えていただく様々な立場の方を紹介し、組織的に対応することを目指す	8割の保護者から「そう思う・だいたいそう思う」という回答をいただいている。	スクールカウンセラー、こころスマイル支援員、学カステップアップ支援員など、児童のサポートをしている方々の紹介をしながら組織的に対応していく。
教職員は、保護者や地域の方々と積極的に関わり、連携を図ろうとしていますか。	2・3	・様々な意見を聞く体制を整え、連携を図り、組織的に対応していく	9割の保護者から「そう思う・だいたいそう思う」という回答をいただいている。担任や担当が窓口になり、組織的に関わることが定着してきた。	保護者や地域の方の意見を聞き、連携を図りつつ、教育活動に反映させながら取り組んでいく。
学校・PTA・地域は、通学班での登校や「かけこみポイント設置」、下校時の見守り等で、子どもの登下校の安全を確保するように努力していますか。	2・3	・PTA・地域の見守り隊と連携を図り登下校の安全を見守る ・地域の危険箇所を、引き渡し訓練で確認をする	好意的な意見をいただく保護者の方が多い。見守り隊の方が児童のために助けていただくことで、安全に登下校することができている。	地域とPTA、学校がより一層連携を図りながら、登下校の安全確保、学区の危険箇所を確認しながら進めていく。
ISS(安心・安全な学校)認証校として、校内の安心・安全教育及び対策や自転車のヘルメットの着用・防犯ブザーの携帯率の向上等、取組は充実していますか。	2・3	・ヘルメット・防犯ブザーの携行率向上の取組 ・通学班指導・交通安全教室・避難訓練等の励行	これまでのISS活動に加えて、6年生が中心となり様々なアイデアで活動を展開することで、安心安全な学校地域づくりが進んできた。	6回目の認証という年度になるが、これまでの良い取組に加え、今の児童の実態から新しい取組を考えながら、児童に寄り添う活動を進めていきたい。
今年度の学校関係者評価委員会からの意見				
今年度も概ね、良い評価をいただいている。あいさつについては、見守り活動を通して見える様子は、しっかりあいさつをする児童が多くなってきていると伝えていただいた。「自ら率先し、あいさつをする児童は少ないが、今の時代だと難しいのかも」という意見も。また、ISS認証校として、活動自体が教育活動のベースになっていることを評価していただいた。				
今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針				
今年度、学校経営として、保護者、児童、学校運営協議会の委員から概ね好意的な評価をいただくことができた。次年度は、ISS認証の年にもなることから、「安心安全な学校づくり」に努めていきたい。継続して取り組む活動のほか、新たな取り組みとして今年度児童から提案され実践してきた活動(心の安心安全・人権週間等)へも目を向け取り組んでいきたい。また、あいさつについては、児童会活動に頼りすぎず、別な切り口から指導を重ねていきたい。				